横浜植物会
会報
第256号
Vol.53,No.1
事務局　〒244-0802
横浜市戸塚区平戸5-32-41　渡辺 重彦 方
Fax 045-825-2460　〒振替口座　0280-2-13074
E.mail:yoko.syoku1909@gmail.com
令和4年2月1日 (2022)
横浜植物会ホームページ　http://yoko-syoku.sakura.ne.jp/（変更しました）

ケレンリソウ *Lathyrus hirsutus* L.

会長　勝山輝男

前回に引き続き、三重県の太田久次氏採集の未同定植物で素性が明らかになったものを紹介します。今回紹介するものは、マメ科レンリソウ属で豆果に密毛があるものです。

レンリソウ属 *Lathyrus* は葉が偶数羽状複葉で先端が巻きひげになる点でソラマメ属 *Vicia* に似ていますが、茎にはしばしば翼があり、羽状複葉の小葉は数が少なく、ときに消失して托葉や茎の翼が発達して偽葉になります。北半球を中心に世界に約160種ほどがあります。日本にはイタチササゲ *L. davidii*、ハマエンドウ *L. japonicus*、レンリソウ *L. quinquenervius*、エゾノレンリソウ *L. palustris* の4種が自生し、タクヨウレンリソウ *L. aphaca*、オトメレンリソウ *L. clymenum*、スズメノレンリソウ *L. inconspicuus*、ヒロハレンリソウ *L. latifolius*、ヒゲレンリソウ *L. ochrus*、キバナノレンリソウ *L. pratensis*、ヤナギバレンリソウ *L. sylvestris* の7種の帰化が記録されています。

三重県で採集された標本の形質は以下で通りです。つる性の草本で、茎には狭い翼がある。葉柄は長さ約 1cm、狭い翼があり、托葉は狭三角形で長さ 5-10 mm、基部は耳状に茎を抱く。小葉は1対、広線形で平行する数脈が目立ち、長さ2-6 cm、幅5-10 mm、巻きひげは3分岐する。花序は 1～3 花をつける。萼は長さ 3-4 mm、萼歯は同形で、筒部と同長。花は長さ10-15 mm、旗弁は赤紫色、翼弁と竜骨弁は青白色を帯びる。豆果は長さ 2-3 cm、基部が膨れた褐色毛を密生する。種子は円盤状で径約 3 mm、表面には半球形の小突起が密生する。

レンリソウ属の種数が多いヨーロッパから調べました。Flora Europaea の検索表では約50種あります。1_葉に小葉がある、2_茎に翼がある、3_すべての葉に小葉があり偽葉はない、4_すべての葉が小葉1対、5_花序は 1～3 花（多花ではない）、6_花は黄色ではない、7_花は長さ 20mm 以下、8_萼歯は筒部と同長、9_小葉は長さ 15～90mm、10_豆果は有毛。以上のキーから迷うことなく *L. hirsutus* に到達しました。Flora Europaea や手持ちのヨーロッパの図鑑の記載と矛盾がないことを確認し、ネットで検索して画像を確認しました。

GBIF のサイト（https://www.gbif.org/ja/species/5356382）を見ると *L. hirsutus* はヨーロッパに広く分布し、北米に帰化しています。Google で学名を検索したり、帰化植物便覧などを見てみましたが、日本での帰化や栽培の記録は見つかりませんでした。和名をケレンリソウと名づけ、生命の星・地球博物館の標本DBに登録しました。

ケレンリソウ *Lathyrus hirsutus* L., Sp. Pl. 732. (1753).
標本：三重県四日市市四日市港　1976年7月18日　太田久次 no.11644（KPM-NA0222107）.

文　献

Bull, P. W., 1968. *Lathyrus* L. in Tutin et al., Flora Europaea Vol.2, second edition pp.136-143. Cambridge University Press, London.
Blamey, M. & C. Grey-Wilson, 1989. The Illustrated Flora of Britain and Northern Europe. 544pp. Hodder & Stoughton, London.

図：ケレンリソウ *Lathyrus hirsutus*（スケール　5 cm）